

ニュース

# 九州新幹線 全線開業の経済効果

## 関西以西からの宿泊5割増

昨年3月12日の九州新幹線鹿児島ルート全線開業からやがて1年。JR九州が昨年11月に発表した熊本駅の九州新幹線利用客は4月から9月まで、目標を上回る1日あたり平均1万3400人で推移するなど駅に活気が始めている。また熊本県内の関西以西からの宿泊客は6月から10月までの速報値で5割以上の伸びを示すなど、九州新幹線の開業効果が現れているようだ。



▲新大阪直通の「さくら」が到着し、多くの乗降客が行き来する新幹線熊本駅構内

## 春のダイヤ改正で「みずほ」「さくら」増便へ

熊本県が実施した「宿泊客数動向調査（6月～10月）」によると、熊本県の延べ宿泊者数（速報値）は、前年同期に比べ、海外客は減少したものの、国内客が増加。全体では累計で前年同期を約5.2万人上回る62.0万人（9.4%増）となった。このうち、国内客は関西以西からの来訪者を中心に50%以上増加し、新幹線開業効果が現れる結果となった。

またJR九州では昨年12月、九州新幹線の増便など春のダイヤ改正を発表した。

同社では3月17日のダイヤ改正で、山陽・九州新幹線直通の「みずほ」「さくら」を計16本（8往復）増便し、朝夕の時間帯は概ね1時間当たり2本の直通運転を実施。新大阪鹿児島中央間の所要時間も最速3時間42分（3分短縮）となり、さらに利便性が高まりそうだ。

また昨年11月に発表した熊本駅の九州新幹線利用客は4月から9月まで、目標を上回る1日あたり平均1万3400人で推移し、活気が出始めている熊本駅。県市でつくる新幹線くまもと創りプロジェクト熊本地域推進本部は3月17、18日に駅前広場やくまもと森都心プラザ前広場で九州新幹線全線開業1周年記念イベントを予定し、さらに活気が増しそうだ。



▲JR九州では春のダイヤ改正で「みずほ」「さくら」の増便を予定。さらに利便性が高まりそうだ。

## 2次アクセス好調

### 熊本駅に「活気」

九州新幹線と県内観光地を結ぶ鉄道の2次アクセス利用が好調だ。開業から9カ月、3月の東日本大震災後は動向が不安視されたものの、6月頃から増え始めている関西や中国地方からの観光客が、利用を下支えしているようだ。

熊本駅4番ホーム。軽快なジャズが流れ出すと、レトロな趣の観光特急「A列車で行こう」が姿を見せる。流れる音楽はもちろん列車の名前と同じジャズの名曲、旅情をくすぐる粋な仕掛けだ。乗車率は78%（11月末）と「好調に推移」（JR九州広報室）。終点の三角駅で（株）シクルーズが運航する定期船と接続し、天草市本渡町までは約1時間の船旅となる。

「世界の阿蘇」へのアクセス、「あそぼーい！」は乗車率が56%（同）。阿蘇市観光協会が主催する「阿蘇カルデラツアー」といった着地型ツアーの参加者が伸びるなど一定の効果を生み出しているようだ。



## 「A列車」乗車率は8割に



▲熊本駅の九州新幹線利用客は7月以降、目標を上回って推移。上、駅フレスタ西館の総合観光案内所には月平均6千人が訪れる。写真は京都から来た学生のグループ

▶熊本駅で出発を待つ観光特急「A列車で行こう」。熊本～三角間を38分で結ぶ。車内にはパーカウターも備えている

▼阿蘇駅であそぼーい！を降りる利用客。夏休みは同駅も混雑を見せた

